



2023 年 11 月 24 日

## ミレイ新政権とアルゼンチン経済の行方

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

11月19日に実施されたアルゼンチン大統領選挙決選投票はミレイ候補が得票率56%で対立候補のマッサ氏(得票率44%)を下し当選した。第1回投票(10月22日)時の得票率が30%であったことを考えると圧勝と言えるだろう。

ミレイ氏の勝因は、アルゼンチン国民が政治に「新味」を求めたことである。この10年あまり、アルゼンチンでは右派も左派も中道も政権を担ったが、経済は一向に改善せず、高インフレが続いている(2023年10月の消費者物価上昇率は前年比142.9%)。その結果、既存政党に嫌気がさした国民が、政治経験は短いが新奇な政策を掲げる新人候補に期待したのであろう。その期待は大きく、相手候補に12ポイントもの差となって表れたのである。しかし、この大きすぎる期待はミレイ大統領の政治的資産にはならず、むしろ後日、負債となるだろう。選挙戦中に掲げた公約は荒唐無稽なものが多く、現実には実現困難なものばかりであるからだ。

まずドル化は技術的にも政治的にも困難である。過去、通貨危機が頻発したアルゼンチンでは慢性的な外貨不足が続いている。現在も外貨準備高は統計上約270億ドルとなっているが、為替アナリスト等によると、中銀は既に先物やスワップでドル売りを実施しているので、外貨準備高は事実上マイナスになっていると見られている。このような状況でドル化するには、巨額のドルを調達する必要があるが、アルゼンチンにドルを供給する国や機関、投資家がでてくるだろうか。

次に、ミレイ大統領が属する政党は小党に過ぎず、議会に十分な政治的基盤がない。アルゼンチンは伝統的に行政権が強く、過去も大統領令で強引に政策を実施する例があったが、さすがに中央銀行を廃止するのであれば、国会で法案を審議、承認する必要があるだろう。だが野党が中央銀行の廃止を易々と認めるとは考えにくい。例えば、ドルを持たない政府がペソを廃止してしまったら、翌月の公務員給与の支払いは可能だろうか。疑問は尽きない。

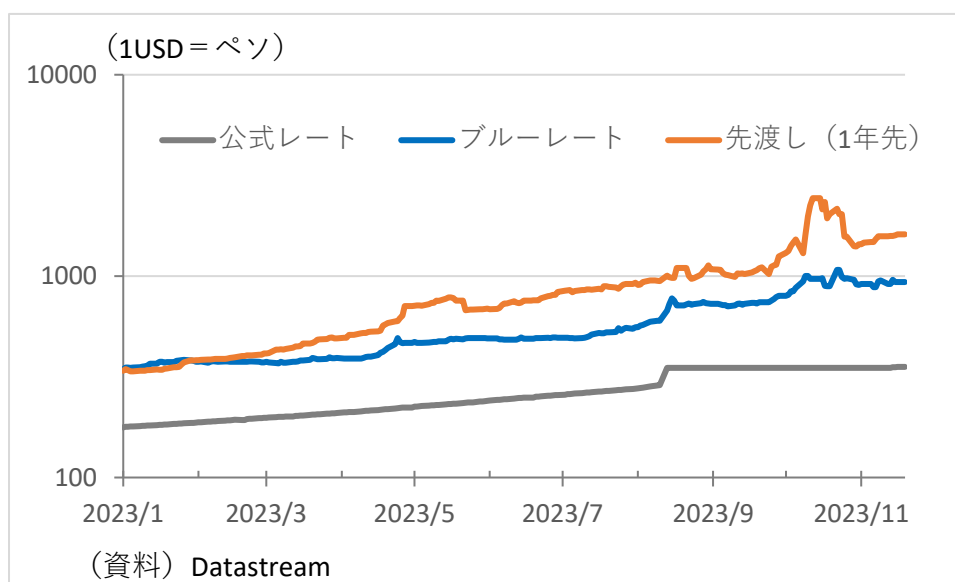
また選挙戦序盤、ミレイ氏は社会保障や医療保険の廃止も訴えていた。さらに臓器売買の自由化など倫理的に審議を尽くすべき政策も公約には含まれていた。どの公約も拙速に決めるべきものではなく、野党は十分な審議を求めるだろう。

今後の展開を予想すると、実際にはドル化だけでなく多くの公約が先伸ばしとなり、その間、政策の不透明感を払しょくできないため経済の悪化が止まらないという事態に陥ることが憂慮される。さらに天候面でもエルニーニョ現象による干ばつが深刻化しており、農業国アルゼンチンの来年の見通しは暗い。

政策の停滞は早々に新政権への失望に変わってしまう可能性が高い。期待が大きいだけに、失望も深くなる。その帰結として最も懸念されることは、内政の失敗を隠すために政府が対外的冒険主義に走ることである。ミレイ氏が突然、フォークランド諸島の帰属について発言し始めたことが、冒険主義の前触れでないことを願いたい<sup>1</sup>。

現在、アルゼンチンペソの公式為替レートは1ドル=353ペソであるが、実勢を示すブルーレート（自由取引レート）は935ペソ、1年後の先渡しレートは1611ペソに下落している。先渡しレートは、アルゼンチンの将来に対する市場の評価を敏感に反映すると思われる。注視していく必要がある。

図1 アルゼンチンペソの対ドルレート



以上

<sup>1</sup> 1982年、アルゼンチンの軍事政権がアルゼンチン沖のフォークランド諸島（英領）を占領したため、英国との間で戦争となった。アルゼンチンの敗北に終わった。

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。